

ココが聞きたい

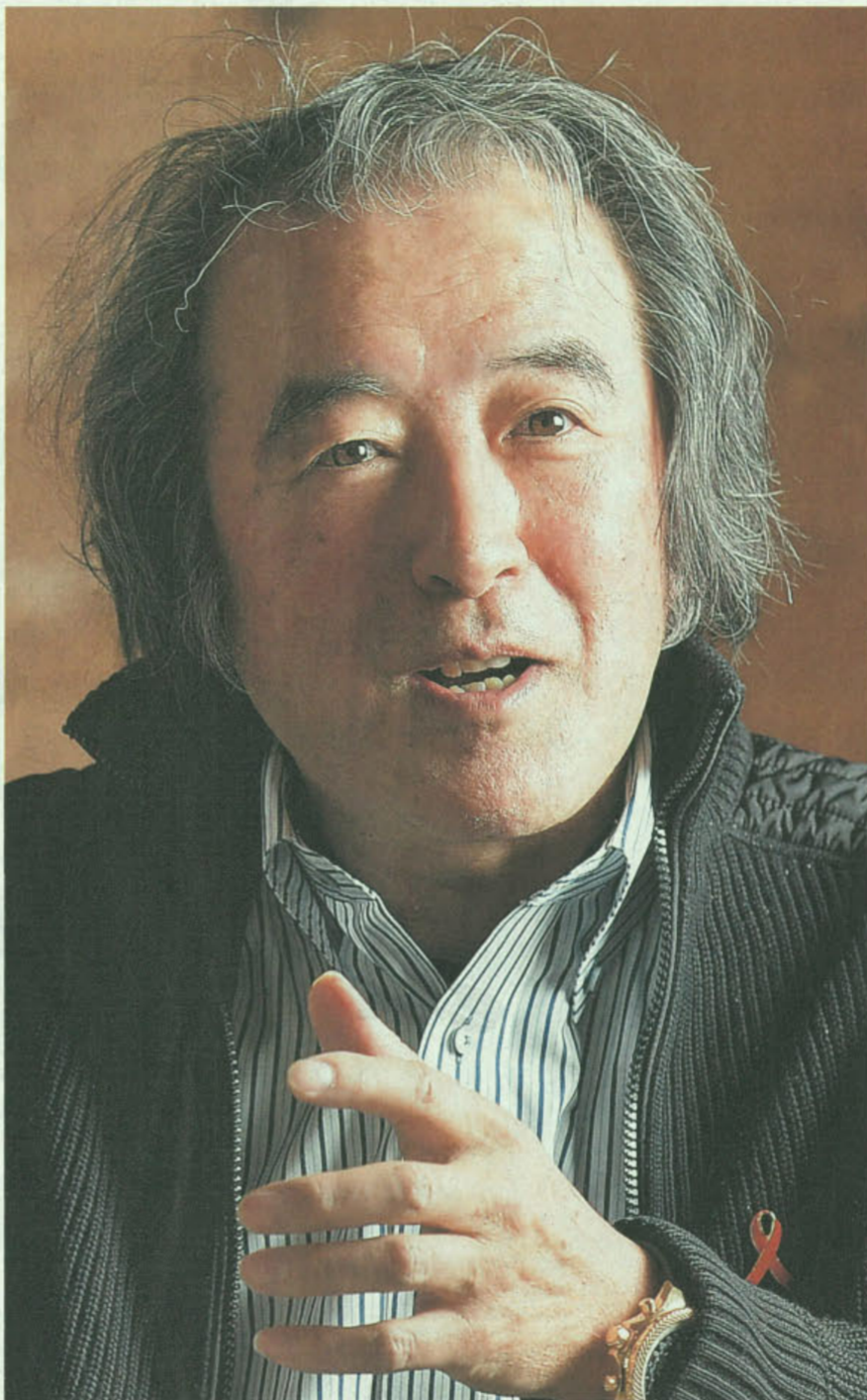
編集局長インタビュー

Vol. 11

林 幸泰さん

大里研究所理事長

病気予防には教育が重要



はやし・ゆきやす 1957年4月30日岐阜県生まれ。岐阜工業高等専門学校卒業後、米カリフォルニア州のリオ・ホンド・カレッジとウィティア大で経営管理学を学ぶ。大里研究所(揖斐郡大野町稲富)の理事長として予防医学を通じた医療費削減を目指し研究に取り組む一方、「最大の予防は教育である」との理念から小中学生の教育活動にも注力している。98年から世界エイズ研究予防財団日本事務所(同所)の代表、2012年から同財団理事。米オハイオ州立大の学長会会員でウィティア大の理事も務める。岐阜市在住。

昨年11月にバチカンであった世界的健康格差に関する国際会議で、日本の超高齢社会を例に挙げ、認知症予防の重要性を訴えた大里研究所の林幸泰理事長。研究所では義父の故大里章博士が発案した発酵食品の研究を進めるほか、代表を務める世界エイズ研究予防財団日本事務所でも長年にわたり若者に対する予防教育に注力。日頃の研究活動や予防医学の重要性などについて聞いた。

キキ手 桐山圭司 取締役編集局長

バチカンであった国際会議の内容は。

2015年に世界病者の日のミサで招待を受けた際に、フランススコ法王に予防医学の重要性をお話した縁もあって、会議への招待があった。世界のカトリック系の病院の医療ネットワークをバチカンが担っている。病気の予防の中でも認知症の対策は世界的な関心事で、アイデアを私どもに求めたようだ。会議は毎年開かれ、今回のテーマは不均衡な医療格差をどうするかということ。私は日本が迎えるスーパーエイジングソサイエティー(超高齢社会)について説明し、認知症を予防する方法を早急に見つける必要があると話した。

認知症を予防する手がかりは。

病気になる前に医者が診断して予防薬を処方することはできない。最大の予防薬は教育。大人になる前の小中学生に予防の重要性を伝えることが大事で、予防が医療費削減の手段になるはずだ。二つ目に日本は他の国よりも植物性の発酵食品が多くあるので、そういった発酵食品を毎日摂取することが健康で長生きにつながるのではないかと。三つ目はリタイアした後、医療に頼らない健康な老人を目指すためのプランが必要だということだ。

なぜ教育が効果的なのか。

世界エイズ研究予防財団をユネスコ(国連教育科学文化機関)総裁と一緒に設立したモンタニエ博士(08年・ノーベル医学生理学賞受賞)から要請があり、1998年に日本事務所をスタートさせた。HIV感染はほぼ100%教育によって防ぐことができるの思いで活動を始めた。現在世界にはHIV感染者とエイズ患者が合わせて3670万人いて、日本にはHIV感染者が1万892人で、エイズ患者が8523人(2016年時点)いる。日本では非常に少ないが、問題は一度も減少していないこと。小

中学生には病気の特性について理解してもらい、それを考えて防御すれば防げると伝えている。

研究を続けているFPP(パパイヤ発酵食品)について聞きたい。

バチカンではFPPが認知症に有効だと考えられる根拠を、臨床研究論文と継続中の研究とともに説明した。脳には血液脳関門というバリアがあり、異物を一切受け入れられないので、脳の薬を作るのは非常に難しい。FPPは糖質を主成分としており、血液脳関門の問題もなく、脳内にFPPが作用する。加齢とともに糖のエネルギー代謝が悪くなり、最も影響を受けるのは脳。ガス欠状態になって、脳の再生と維持ができなくなる。米・フロリダ大で治験を進めており、FPPを摂取した高齢者の脳のエネルギー代謝が良くなれば、老化の予防的な働きを証明することができる。認知症の予防の一つの例として証明できるのではないかと。

大里博士はなぜパパイヤに注目したか。

義父は天才肌で魅力的な人だった。パパイヤの薬効に注目したが、食品という観点から安全性を重視した。パパイヤは長期にわたって使っても副作用がなく、パパイヤを食べて害があったという人の報告は少ない。東南アジアや南米では胃腸の調子が悪いときに昔から伝わる「おばあちゃんの知恵」としてパパイヤを食べる。

ル・マン24時間耐久レースに出場するアストン・マーチンを支援するきっかけは。

当時のアストン・マーチンのCEO(最高経営責任者)に、時差ぼけの対応にFPPを紹介したのがきっかけ。その後、チームから2005年に、ル・マンに復帰するから、パートナーになっ

てほしいと頼まれた。07年、08年もアストン・マーチンは2台のレースカーを出場させ、いずれもFPPを摂取したドライバーのカーナンバー009が優勝している。

超高齢社会を健康で生き抜くには。

一番の問題は、リタイア後に社会との接点がなくなること。高齢者が若い人たちと一緒に気持ちよく働ける場所を提供することが健康維持につながる。私が一番良いと思うのは農業。大野町は富有柿の産地で、農家も高齢化が進んでいる。町からも柿畑の休耕地の有効利用の相談があって、5年前からブドウの栽培を始め、ワインづくり

を目指している。あえて難しい品種を植え付けして無農薬栽培にチャレンジしている。他の専業農家と競合しない形で、生産効率や収益確保を目的とはせず、時間と手間をかけ、やりがいと達成感を得るというプロジェクトを進めている。

ワインの完成が待たれる。

フランスではブドウ畑の隣りにバラを植えている。目的はブドウに付く病気から守るため。大野町はバラの栽培農家も多いので一緒にPRできるといい。

文・青山和史
写真・安藤茂喜

ココに納得!

大里研究所は、これまでに林さんを含め、3代のローマ法王と会話を交わしている。そんな研究者が身近にいたことに驚き、話を聞かせてもらった。林さんは発酵食品の研究を続ける中で、予防医学を探究し、国内外で講演活動を続けている。

映画007シリーズで有名な名車、アストン・マーチンのオフィシャルパートナーに日本で唯一名を連ねたと思えば、高齢者の健康維持のために農業を推奨、柿の産地で、あえて難しいワイン作りを手掛けている。次々とわき出るアイデアは、健康、長寿をキーワードに世界と岐阜をしっかりと結びつけているようだ。

この企画は隔月(奇数月)第2日曜日に掲載します。